

きこえない・きこえにくい人／みえない・みえにくい人のための大学

国立大学法人
筑波技術大学

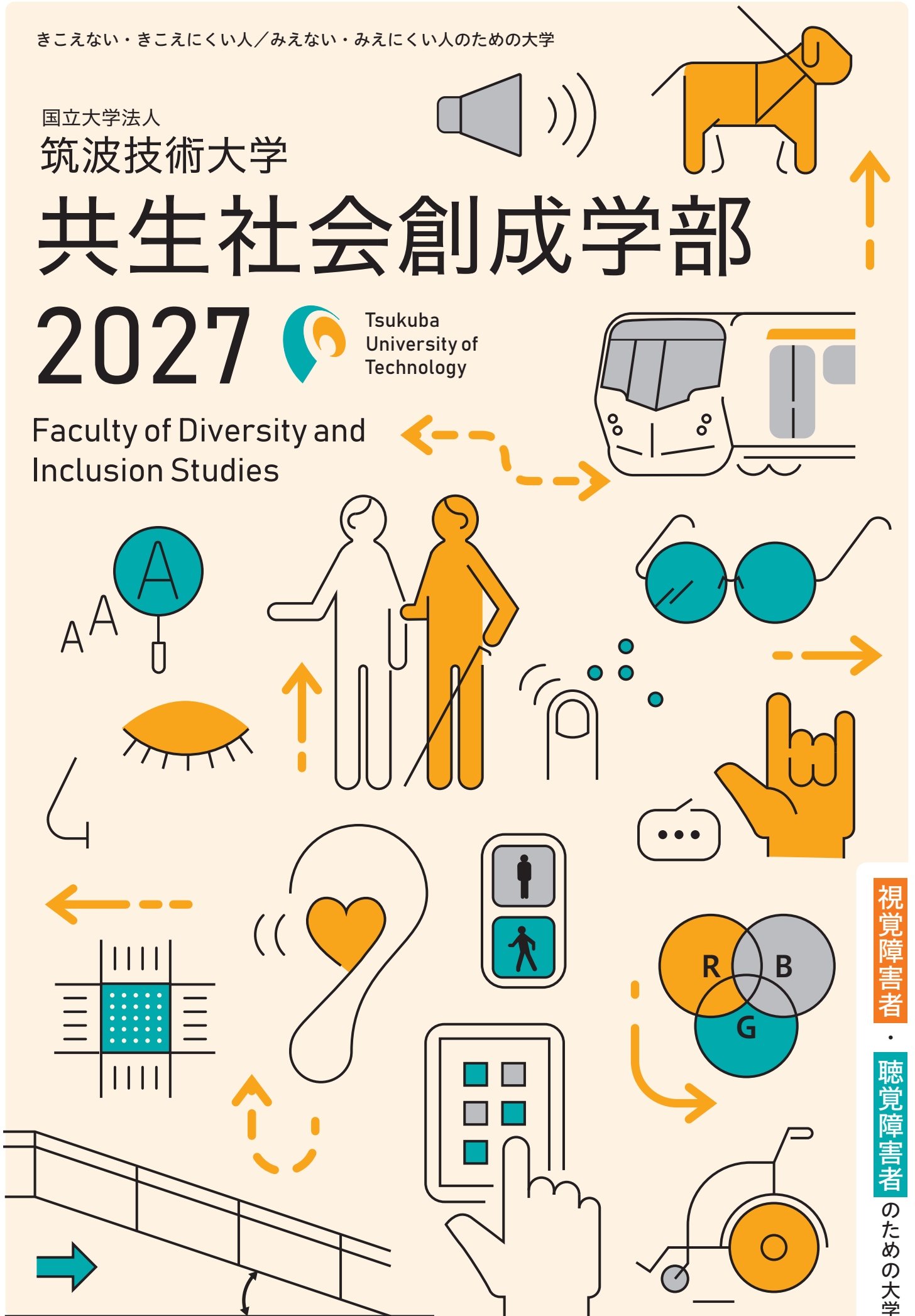
共生社会創成学部

2027



Tsukuba
University of
Technology

Faculty of Diversity and
Inclusion Studies



視覚障害者

聴覚障害者

のための大学



Faculty of Diversity and Inclusion Studies

ごあいさつ

共生社会創成学部は、視覚に障害のある学生と聴覚に障害のある学生が共に学ぶ、本学で初めての学部です。

みなさんには、聞こえなくて悔しい思いをしたり、見えなくて不安を感じたりした経験はありませんか。周りに合わせて自分の気持ちを抑えたり、「仕方ない」とあきらめたりしたこともあるかもしれません。

私たちの社会には、耳の聞こえる人、目の見える人を前提に作られた仕組みがたくさんあります。情報にアクセスできない、対話に参加できない——そうした障壁が、あなたに辛い思いをさせてきたのだとしたら、それはもう、あなた一人が抱えるべき問題ではないでしょう。

この学部では、こうした社会の中に潜む障壁について理解するための「障害社会学」と、それを乗り越える手段としての「情報科学」を体系的に学びます。学年が上がるにつれて、視覚と聴覚の枠を超えた共同の学びも広がり、さらにプロジェクト実習では学外のさまざまな人々と関わりながら人と社会に働きかける実践力を育てていきます。

あなたがこれまで経験してきた痛みや葛藤は、社会を変える力になります。もう気持ちを抑えなくていい、我慢しなくていい。誰もがありのままに力を発揮できる——そんな社会を、私たちと一緒に創りませんか。

共生社会創成学部は、あなたを待っています。

共生社会創成学部長 白澤 麻弓

視覚・聴覚に障害のある学生が学ぶ

共生社会創成学部

Contents

- 2 共生社会創成学部の概要
- 4 視覚障害コース
- 6 聴覚障害コース
- 8 共同実施科目
- 10 障害者高等教育研究支援センター
- 14 附属施設
- 16 学生の1日
- 18 学生寄宿舍生活
- 20 つくば暮らしマップ
- 22 課外活動
- 24 国際交流
- 26 学生座談会
- 30 先輩インタビュー
- 32 入学案内・各種費用
- 34 オープンキャンパス開催日程
- 35 アクセスマップ

共生社会創成学部の概要

■共生社会を希求する、そして未来へ

障害者を取りまく制度や社会意識は、ダイバーシティ&インクルージョンに向けて変化してきました。しかし、現状では、今なお障害者の社会参加を阻む障壁が残されています。これからの社会では、この障壁を取り除いていくための知識や理解を持ち、社会に働きかける人材が必要とされています。

共生社会創成学部では、情報アクセシビリティに関する情報科学と障害社会学の知識を学びます。一人ひとりに対応した情報保障を行いつつ、異なる障害種別の学生が互いに学ぶ機会を設けることで、多様性の理解とエンパワメントを促進し、障害者を含む多様なマイノリティが活躍する共生社会を創成する、チャレンジする心を持った人材を養成します。

■教育の特徴

共生社会創成学部の教育は、教養教育系科目、専門教育系科目、共生社会創成プロジェクト系科目の3つに大別されます。

1) 教養教育系科目

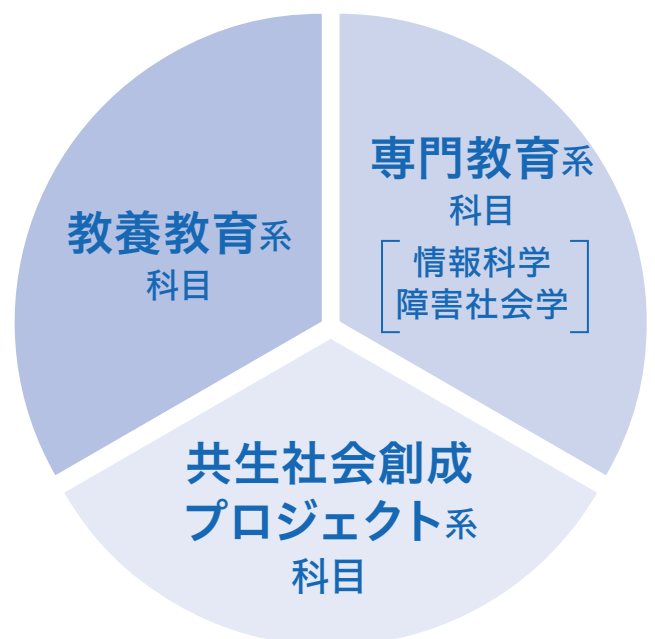
異なる価値観の人々や多様な専門分野の人々と連携して職務を遂行するために必要な教養と、データを解釈し意味を見出す論理的な思考を身に付けます。

2) 専門教育系科目

社会で活躍するための基盤となる情報保障に関する専門的な知識と、障害の社会モデル、人権についての理解を身に付けます。

3) 共生社会創成プロジェクト系科目

人と環境に働きかける、共生社会の創成に必要な実践力を身に付けます。



■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

共生社会創成学部では、障害者の視点から共生社会の創成に取り組む人材を育成します。そのために、次のような力を身に付けることができる教育を提供します。

1. 多面的かつ総合的な思考力

異なる価値観の人々や多様な専門分野の人々と連携して職務を遂行するために必要な幅広い教養と、データを分析し意味を見出す論理的な思考力。

2. 情報アクセシビリティに関する知識と課題の分析力

多様な人々が情報を利活用する方法に関する知識に加え、自らの専門性の基盤としてのICTに関する知識と技術。

3. 障害と社会の仕組みに関する知識と課題の分析力

多様なマイノリティと社会の仕組みに関する知識を身に付け、社会の状況と課題を多面的・客観的にとらえる力。

4. 人権に関する知識に基づき共生社会を希い探究する力

人権に関する知識を身に付け、エンパワメントのプロセスを経験した上で、格差解消に向けた方途を論理的に探究し構想する力。

5. 共生社会創成に向けた知識の応用と環境にアプローチする力

多様な人々との間の調整を図り、人と環境に働きかけることで共生社会を創成していくための環境を整備するコーディネート力及び発信力。

以上のような知識や能力を身に付けた方に対し、「情報保障学」の学位を授与します。

情報保障学とは

情報は人の生涯にわたり、また、学校、家庭、地域、職場など、人が生活するあらゆる場所で必要とされます。しかし、情報へのアクセスには格差があります。障害者をはじめとする多様な存在が、平等に情報にアクセスできるようにするためには、情報へのアクセスを阻害する要因を生み出す社会構造に関する理解と、その要因にアプローチする力が必要になります。

共生社会創成学部は、情報保障に資する情報科学、障害社会学の知見を体系的に修得し、多様な人々の社会参加をめざす実践について学ぶ学部です。このような学びを情報保障学と呼んでいます。

視覚障害コース

授業の 特徴

一人ひとり異なる見え方（視力及び視野）があるため、入学時の面談により授業を受ける上でのニーズを確認した上で対応を行います。また、アカデミック・アドバイザーとの面談により学修状況を確認しながら調整を進めます。

- 点字資料や拡大資料、電子データ等での教材提供
- 学生の習熟度に合わせた、読み書きを支援する機器活用の指導
- 「これ」「それ」といった指示語の回避と具体的な説明
- 授業内容と教材との対応関係を把握していることを確認しながらの進行
- 様々な活動での安全な環境の準備



■ 開設科目例

1年次

視覚障害学概論/点字の理論と実際/情報基礎1・2/情報基礎演習1・2/情報アクセシビリティ ほか

2年次

視覚障害者社会参加論/視覚障害当事者研究1・2/プログラミング基礎/コミュニケーション演習/社会調査論 ほか

3年次

視覚障害当事者研究3/環境マネジメント/障害者サポート技法/アクセシブルドキュメント/業務研究 ほか

4年次

社会保障論/アクセシブルモデリング/音声ユーザインタフェース ほか

教養教育系科目

修学基礎/英語A～D/日本語表現法A・B/健康・スポーツ A～D/情報と社会環境 ほか



視覚障害コースの授業の様子

障害社会学に関する科目「視覚障害学概論」

視覚障害児・者個々人の見え方は千差万別です。本授業は、講義、ディスカッション、ゲストスピーチなどで構成され、キャリア形成の基礎を整える視点から、自己の障害の特性を理解し適切に対処するための知識や技術を身に付けます。さらに、自己の障害や視覚障害全般についての見識を深め、社会的なリーダーとしても通用する障害者となるべく、障害者に対する社会の認識、障害者の自立などを学修します。

障害社会学に関する科目「視覚障害当事者研究1・2・3」

2年次から3年次にかけて開講されるこの授業では、「チャレンジを科学すること」を目標に、障害ゆえに現れる個々の課題や困難さに、「科学的な考え方」で向き合う力の育成をめざします。自分の自信と誇りを持てるようになることが目標です。

情報科学に関する科目「情報アクセシビリティ」

視覚障害がもたらす最も深刻な問題は、情報アクセスの困難や不便さです。社会の情報化が進展するなかで、視覚障害者の情報アクセシビリティを向上させるための様々な取り組みについて多面的に学び、アクセス支援技術の研究開発と普及の動向を総合的に学修します。

聴覚障害コース

授業の特徴

一人ひとり異なる聴力及び聞こえ方であることに加え、自分が話す時と相手の話を聞く時とで最適なコミュニケーション方法が異なる場合もあります。このため、入学時にコミュニケーションに関する調査票でニーズを確認する他、アカデミック・アドバイザーとの面談により学修状況を確認しながら調整を進めます。

- 授業では手話、音声、文字を組み合わせで説明
- 授業内容と教材との対応関係を把握していることを確認しながらの進行
- 資料をホワイトボードに投影し、そこに書き込みながら説明する等して、授業の内容と教材の対応関係を視覚的に確認できる工夫



■開設科目例

1年次

情報リテラシー/数学基礎/社会統計学A・B/障害の特性と理解/障害社会学/情報保障概論/ウェブテクノロジーとセキュリティ ほか

2年次

情報数理/情報基礎論A/情報基礎論・演習B/ダイバーシティの理解/聴覚科学/教育とダイバーシティ/障害者の就労と社会/セルフアドボカシー演習/情報科学概論/プログラミング基礎/支援技術学論 ほか

3年次

ライフキャリア/社会福祉学/共生社会と支援/手話・点字と障害支援技術/ヒューマンインタフェース/情報保障技術学・演習 ほか

4年次

社会保障論/データ解析法演習 など

教養教育系科目

修学基礎/英語/日本語表現法/健康・スポーツ/手話コミュニケーション/アメリカ手話言語 ほか



聴覚障害コースの授業の様子

聴覚障害コースの授業紹介

障害社会学に関する科目「情報保障概論」

聴覚障害者が社会で平等に情報にアクセスし、活躍していくためには、手話通訳や文字通訳などの情報保障が不可欠です。この授業では、情報保障の定義や意義、各種情報保障手段の特性、養成・認定・派遣制度、ICT技術を活用した最新の情報保障技術など、幅広いトピックを理論と実践の両面から学びます。講義で基礎知識を習得するとともに、さまざまなワークを通じて情報保障を実際に体験することで、情報保障を適切に活用していくための実践的な知識と理解を深めていきます。

障害社会学に関する科目「ライフキャリア」

社会で活躍して報酬を得る仕事だけでなく、結婚、出産、育児、親の介護など、生涯のあらゆるステージを「キャリア」と捉え、それを豊かにし、自ら切り拓く力を身に付けていくことが「ライフキャリア」という考え方です。生涯に渡るキャリアの発達・開発について、理論から実践について学び、自分らしいキャリアをどのように歩むか、講義・ワーク・ディスカッションを通じて考えます。

情報科学に関する科目「支援技術学論」

障害者等の生活において支援技術が関わる範囲について知り、幅広い支援技術の実際・実践を知ることを通し、情報保障工学、福祉機器工学、福祉住環境学、アクセシブルデザイン学の領域に関する基本的な知識の習得をめざします。

Subjects

共同実施科目

授業の特徴

学年が上がるにつれて、視覚・聴覚両コースの共同実施科目が増えます。共同実施科目では、教育が最大限の人々に機能するように設計されるべきであるという「学びのユニバーサルデザイン」に基づく考え方を採用し、たった一つの万能策としての授業設計ではなく、その時々参加者のニーズに応じてカスタマイズすることが可能であるような、柔軟な授業設計を行います。このため、通常の授業よりも丁寧に学習到達度を確認し、情報保障の在り方を随時見直しながら授業を進めます。

- 各コースで提供する配慮を組み合わせた授業
- 授業ごとの振り返りとまとめ
- 予習・復習が可能な形で教材を提示
- グループワークやディスカッションなどを行うアクティブラーニングでは、学生自身が自分や他の学生が必要とする情報保障について考え、その判断に対応した情報保障を実施



社会との共創

筑波技術大学では、「障害者を包含した社会全体のダイバーシティ環境の醸成に貢献」を理念に掲げ、社会との連携強化および共創プロジェクトを推進しています。

本学は、複数の国内機関と連携協定を締結し、多様な専門知識と経験を有するパートナーと協働することで、障害のある学生が主体的に参加できるプロジェクトを展開しています。視覚および聴覚障害のある学生が積極的に参加することで、実践的な学びと社会貢献を両立させる取組を進めています。



市職員への研修実施

2007年より、つくば市の新入職員向けユニバーサルデザイン研修の実施協力を行っています。視覚・聴覚障害者への窓口対応のほか、庁舎内のバリアを検証するワークショップも行っています。



街のユニバーサルデザイン化をめざして

筑波技術大学×首都圏新都市鉄道(株)×つくば市×リンクス(株)の産学官連携により、視覚障害者の移動サポート実証実験を行い、社会実装しました。

共同実施科目の授業紹介

「共生社会創成プロジェクト実習A」

学生が主体となって、自らが関心のあるロールモデルを選定し、情報収集します。収集した情報を分析した上でインタビュー調査の計画、実施、分析を行います。その内容について発表し議論することで、情報収集、分析、計画立案、報告に関するスキル習得をめざします。また、各界で活躍する視覚障害者・聴覚障害者の生き方を知ることを通し、情報科学と障害社会学の知識を融合させ、社会で活かすために必要な力、素養を学びます。

「共生社会創成プロジェクト実習C」

実習先の状況に合わせた、自らを含む多様な人々に関する理解を促進するためのワークショップ等を企画立案・実施します。このことを通して、異なる立場にある人々が協働する際に生じる摩擦の解決力や相互理解と、他者との連携による共生社会創成の推進手法について理解を深め、社会に向けた発信力を養います。

キャリア支援

1年次から視覚・聴覚両コース合同で就職活動について学ぶ授業や3年次にはインターンシップがあります。また、各コースでは、それぞれ保健科学部や産業技術学部と共通の各種セミナーに参加できます。これらの支援により、自身のキャリアについて深く考える機会としています。

障害者高等教育研究支援センター

障害者高等教育研究支援センターは、視覚・聴覚障害者の高等教育を支援するために設けられた全国で唯一の組織です。

障害者基礎教育研究部と障害者支援研究部からなり、視覚・聴覚障害学生の教養教育、教職教育等の実践と視覚・聴覚障害に特化した支援を行っています。また、障害補償システムの研究・開発および障害者の能力開発に関する研究を進めています。さらに、視覚・聴覚に障害のある学生が学ぶ全国の大学等への支援も行っています。

障害者基礎教育研究部 ／視覚

障害者の高等教育プログラムの開発研究等を行うとともに、大学教育における教養教育系科目等の教育課程の編成および教育の実践に携わります。次の理念に基づき教育を担当します。



インタラクティブなコミュニケーションを重視した英語の授業をしています

01 人間形成に資する幅広い教養の習得と社会性の涵養

02 障害を理解し、自ら社会に参加できる自主性・協調性の育成

03 情報化社会に適応できる情報リテラシーと国際化に対応できる語学力・社会生活を円滑に行うためのコミュニケーション能力の育成



いつでも支援機器に関する相談に乗ります

障害者高等教育研究支援センターは、以下のような科目を担当しています。

人文科学・社会科学・自然科学の各領域のほか、複数教員が担当する総合的教養科目を用意しています。視覚障害に関する基礎・病理・障害補償の理解と視覚障害者の就労や社会自立のための基本的な考え方について学びます。健康や体力づくりを科学として学修するとともに、様々なスポーツの実技を通して、生涯にわたって運動を続け、健康や体力を維持・増進する資質と能力を育てます。



障害者支援研究部／視覚

視覚障害に特化した支援や指導を、各学科等と協力して行っています。また、就職活動の支援や進路選択についての助言も担当します。さらに、これらに関連する調査・研究・開発を手がけています。



【利用しやすい学修教材の提供】

専門的な教育で使用する各種の教科書や参考書を点字・触図・DAISY・拡大教材にメディア変換しています。教科書以外についても学生個人からの希望に可能な範囲で対応しています。

学外支援として、人文科学・社会科学・英語を中心とした書籍の点訳も行っています。また、各種講習会や講演会の開催、点訳・朗読ボランティアの養成といった事業を通して視覚障害学生の支援にも取り組んでいます。

【支援機器・技術の指導】

学生生活を円滑に送れるようにするために、点字の読み書きや弱視用機器の活用等に関する

指導を行っています。在学中や卒業後に役立つ福祉制度や社会的支援についての情報提供もしています。また、パソコンをコミュニケーション機器として利用する技術の習得を、個別に指導しています。

【支援情報の収集・提供】

本学開学以来の取り組みを通じて得られた知識と経験、さらには学外との連携体制を活かして、他大学で学ぶ視覚障害学生の各種相談・支援を行っています。



障害者基礎教育研究部／聴覚

障害者基礎教育研究部では「人間性」の土台となる幅広い教養や、専門分野を学ぶための基礎学力を身につける科目を中心に担当しています。多彩な学問を通じて、広い視野と総合的な判断力、豊かな人間性を涵養し、社会に貢献する人材の育成を行っています。授業担当教員の専門領域やキャリア、バックグラウンドも多種多様。ぜひ自分の興味のある授業を履修してみてください。

■人生の基礎を築く教育

【幅広い教養を培う】

専門職業人になるためにも、豊かな人生を送るためにも、教養教育は欠かせません。国際化に必要な英語も視覚教材・手話・口話・板書等を用いた授業で深く学べます。

【コミュニケーション能力を高める】

言語力をさらにのばすための[日本語表現法A・B][日本手話言語基礎]が設置されているほか、自分の聴覚障害を理解し、今後のコミュニケーション方法を考える科目が充実しています。

【障害を理解する】

本学では障害に関して学ぶ科目が多数設置されています。障害を正しく理解することによって、自己を確立し、社会との関わり方が考えられるようになります。

【すべては、学生のために】

学習面での相談はもとより、生活面での相談も、クラス担当・副担当およびアカデミック・アドバイザー(AA)教員が受け付けます。適宜、保護者と連携して、学生の入学から卒業までを支えます。

講義と実技で自分の身体を理解する
「健康・スポーツ」の授業風景

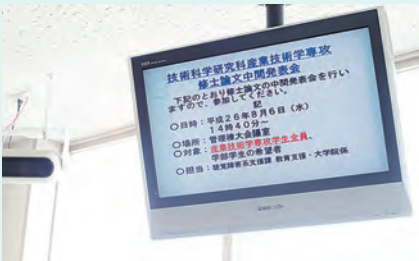


障害者支援研究部／聴覚

「授業での不便さを解消するため、ノートテイクのサポートを受けられる」等、最近では各大学においても障害のある学生の修学機会を保障する取組みがされています。でも、将来の夢に向かって一歩ずつ成長しようとする学生にとって、活用したいサービスは、何も授業中の支援のみにとどまらないはずです。「大学生活中にもっとコミュニケーションスキルをのびたい!」「いつでもどこでも『分かる』環境がほしい」そんな学生のニーズに応えるため、本学では聴覚障害に対応したきめ細かな指導・サービスを提供しています。また、ここで培われたノウハウや、本学の最先端の技術は聴覚障害学生支援のための全国ネットワークを通じて、大学・短期大学で学ぶ聴覚障害学生の学習環境改善のためにも役立てられています。

【聴覚管理・補聴相談】

聴覚を活用している学生にとって、残存聴力の低下や「きこえ」の変動は大きな不安をとまなうものです。本学では、これまで活用してきた聴力を維持し、よりよい「きこえ」の状態を保つことができるよう、一人ひとりの聴覚管理を行っています。また、聴覚障害学生が自ら「きこえ」の程度を把握し、補聴器及び補聴援助システムの自己管理ができるようになるために、きめ細かな補聴器活用支援を行っています。



【目で分かる連絡・広報】

通常、音声で伝えられる連絡・広報も、本学では視覚を活用した形で提示されています。学内には74箇所にCATVモニタが設置されており、授業の予定変更やさまざまな連絡はここに表示されます。また、非常時には音や光による警報があります。いつ・どこにいても情報を逃すことはありません。



【発音・コミュニケーション指導】

学生一人ひとりのニーズやコミュニケーション特性にあわせて、発音やスピーチ、コミュニケーションに関する指導を受けることができます。また、3～4年次の就職活動の際には、就職面接にあわせたコミュニケーション指導も提供されており、社会に出る前の準備も万端に整えられます。



【手話・コミュニケーション指導】

手話が分からない学生は、入学時友達とのコミュニケーションに不安を抱きがちです。こうした不安を一刻も早く取り除くため、1年次の必修科目として手話の指導が行われています。また、手話学習やコミュニケーション上の悩みを感じている学生に対しては、マンツーマンでの相談対応を行っています。

附属施設／視覚



附属図書館

附属図書館には、専門図書だけでなく様々な教養図書があり、図書の種類も通常の墨字図書に加えて点字図書や、DIASYなどの録音図書、拡大文字図書などがあります。閲覧室は歩きやすいように通路が広く、間接照明や手元灯、拡大読書器が整備され、視覚障害者が利用しやすいように配慮されています。図書館内には、スクリーンリーダーや画面拡大ソフト等、視覚障害者に配慮した環境を備えたパソコンが配置されています。

図書検索や情報検索の他、全国の点字図書館などが参加して情報サービスを行っている「サピエ」の利用ができます。また、対面朗読室では、朗読ボランティアによる朗読サービスが受けられます。共同学習室と閲覧スペースの一部は基本的に毎日開いており、インターネットの利用やレポートの作成をすることができます。

保健科学部附属東西 医学統合医療センター

東西医学統合医療センターは、現代医学の治療を効果的に統合して提供することのできる国立の大学附属診療施設として、1992年4月に設立されました。2011年度には、リハビリテーション科も開設されました。

◎特徴のある臨床の実践による
地域医療への貢献

◎東西医学の科学的な研究等、学際的な取組

保健管理センター

本学には、学生の心身の健康を保持・促進するために保健管理センターが配置されています。学生生活の基本は心身の健康です。保健管理センターには、それぞれの視覚障害からくる問題を適切にコントロールして、身体的にも心理的にも安定し充実した毎日が送れるように支援します。

定期健康診断の他、応急処置や各種医療機関の紹介、学修や生活面でのいろいろな問題についてカウンセリングを行っています。特に眼の健康管理については近隣の大学病院や眼科医と連携体制をとってあたっています。



附属施設／聴覚

附属図書館

学修・研究に必要な専門資料や、教養のための図書・雑誌、字幕入りのビデオ等を取りそろえており、パソコンも設置しています。授業の予習・復習、レポートの作成や試験のための利用はもちろんのこと、本学のラーニング・コモンズの一端を担う学習支援のためのラウンジや、セミナー室・研究個室もあり、友達同士やグループでの学習や討議、プレゼンテーションの練習などにも大いに活用してください。



保健管理センター

学生生活を心身ともに健康に過ごせるようにお手伝いをすることが、保健管理センターの主な役割です。当センターでは、応急処置や医療機関の紹介、受診のお手伝いを行っています。また、交友・勉学・寄宿舎・サークルなどの様々な悩みについてカウンセリングを行っています。一人で悩んでいても、良い解決方法は見つかりません。気軽に相談してください。



共用棟

共用棟館内には、学生一人ひとりのメールボックス・学生のための集会室・寄宿舎居住者用男子浴室（女子は寄宿舎内）・和室があります。夜間及び休日等の対応のために、共用棟に事務室を置き、本学委託の管理業務者が勤務をしています。夜間（24時以降翌朝7時まで）でも緊急時に対応できる体制を整えています。



Campus Life

学生の日／視覚



筑波技術大学共生社会創成学部第1期生として入学しました。

共生社会創成学部は2025年度に新設された学部ということもあり、入学前は授業の不安などがたくさんありました。しかし、クラスメイトとたくさん話をしたり、先生方もとても親切に関わってくださるのでとても楽しく大学生活を送ることができています。

共生社会創成学部の1年次1学期は、「修学基礎」や「視覚障害学概論」などが必修科目として設定されています。「修学基礎」のある回では同行援護の事業所などから外部講師の方が来校され、同行援護サービスの利用方法などについて知ることができます。また、「視覚障害学概論」では、眼球の構造や視覚障害に関する法律や制度について学ぶことができます。2年次からは「プロジェクト系科目」が始まります。「プロジェクト系科目」とは、視覚障害の当事者である私たちが自ら社会の障壁などについて考え、行動することを目的にした授業です。クラスメイトと相談をしながら進めていけることが「プロジェクト系科目」の魅力の一つであると私は感じています。

共生社会創成学部では、天久保キャンパスの聴覚障害のある学生と合同で授業をする機会があります。これは他の学部にはない共生社会創成学部の最大の魅力であると思っています。1年次の1学期には「修学基礎」の授業で、聴覚障害コースの学生と合同で、大学の近くにあるショッピングセンターに行くためのシミュレーションや「視覚障害のある学生と聴覚障害のある学生がどのようにしてコミュニケーションを取れば良いか」などディスカッションを行いました。ディスカッションを通して、聴覚障害コースの学生のことを知ることができ、これから始まる合同授業が更に楽しみになりました。

これからも様々な授業があるので、クラスメイトと楽しみながら大学生活を送っていきたいと思います。

皆さんの参考になれば嬉しいです。

視覚障害コース2年

関本 航輝さん

SEKIMOTO Koki

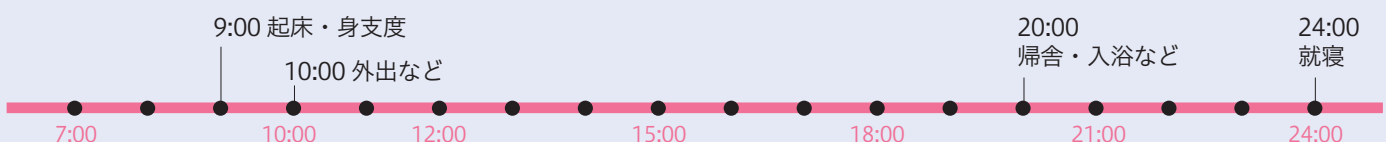
[出身]

北海道札幌視覚支援学校

平日



休日





聴覚



筑波技術大学共生社会創成学部の第1期生として入学しました。

共生社会創成学部は2025年度に新設された学部で、学生は私を含めて4名と少人数です。その分、先生方との距離がとても近く、一人ひとりの理解度やペースに合わせて授業を進めてもらえるため、安心して学ぶことができる環境です。

入学当初は「新しい学部でやっていけるかな」という不安もありましたが、先生方が親身にサポートしてくださり、次第に自信を持って授業に取り組めるようになりました。授業後にはクラスメイトと食事に行ったり、課題を一緒に進めたりと、充実した大学生活を送っています。

共生社会創成学部の魅力の一つは、他学部との連携が多いことです。

授業によっては産業技術学部の産業情報学科や総合デザイン学科の学生と一緒に学ぶ機会もあり、さまざまな専門分野の人と関わることで、自分の考え方や視野を広げることができます。お互いに協力しながら課題に取り組む中で、新しい刺激を受けることも多いです。

1学期で特に印象に残っている授業は「情報保障概論」です。これまで私は情報保障を“受ける側”の立場に関わることが多かったのですが、この授業では“提供する側”として学ぶ機会がありました。情報を伝える側の難しさや工夫の大切さを体感でき、とても貴重な経験になりました。

2学期からは、春日キャンパスの視覚障害コースの学生との交流も増えています。授業後の送迎バスの時間を少し遅らせて、視覚に障害のある学生たちと話す時間をつくったり、互いの学びについて意見交換したりしています。こうした交流を通して、コミュニケーション能力をより深めることができます。

これからも仲間や先生方とのつながりを大切にしながら、自分らしいペースで学びを広げていきたいと思っています。

聴覚障害コース2年

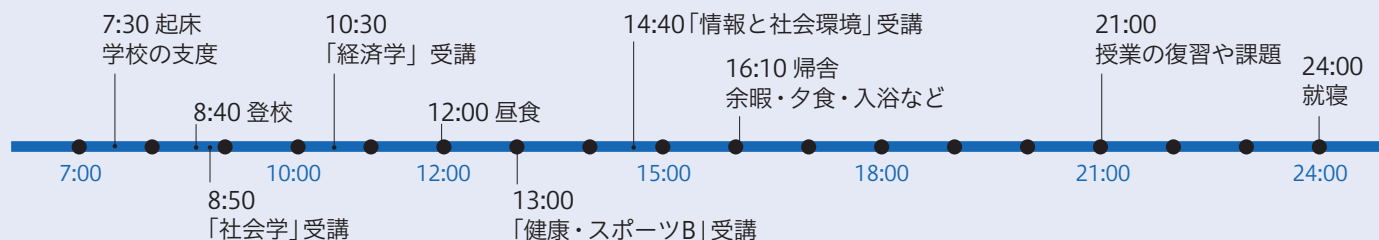
茶屋道 麻琳さん

CHAYAMICHI Marin

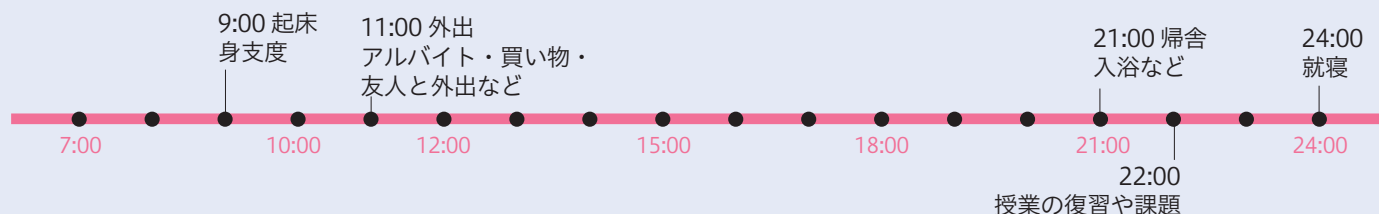
[出身]

熊本県立熊本聾学校

平日



休日



Campus Life

学生寄宿舍生活／視覚



女子専用棟を含めて、学内には、現在4棟の学生寄宿舍があります。学生寄宿舍での共同生活は、学習をはじめ、学生間の交流を深め自立した生活経験を養う場でもあります。4室または6室の個室がまとまって共同生活の単位である「ユニット」を構成しています。ユニットには、簡単な自炊ができるコーナー、洗濯室、トイレなどの共用設備があります。また、構内のどこでも無料のWi-Fiが利用できます。



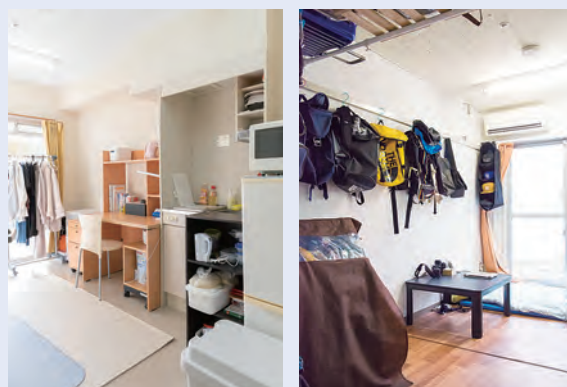
宿舎関係経費 2025年度 [春日キャンパス]

	A～C棟	D棟
寄宿舍	5,000円／月	6,500円／月
共益費	16,000円／月	18,000円／月
居室電気料	実費	



ユニットタイプのA～D棟では、5～6室の個室がまとまって共同生活の単位である「ユニット」を構成しています。各ユニットには、簡単な自炊ができるダイニングキッチン（補食室）があり、ロッカー、IH調理器、テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機と乾燥機が設置されています。

居室内にミニキッチンを備えたタイプのE棟（女子専用棟）では、同フロアに12室の個室があります。各フロアには、共用の談話コーナー、洗面洗濯室、トイレ等が設置されています。部屋面積は約5畳半で、居室内に冷蔵庫、電子レンジがある他、本棚付学習机や椅子も設置されています。



宿舎関係経費 2025年度 [天久保キャンパス]

	A～D棟	E棟
寄宿舍	5,000円／月	6,500円／月
共益費	12,000円／月	11,000円／月
居室電気料	実費	

Campus Life

つくば暮らしマップ



春4エリア

春日キャンパスがある春日4丁目、
通称「春4 (かすよん) エリア」

大学敷地から
徒歩5分圏内



複合商業施設・娯楽

A カラオケ BanBan

- スーパーセンター
トリアル
ドラッグストア、衣料品も併
設。ネットスーパーあり。徒
歩30分。
- イーアスつくば
大型の総合商業施設。
徒歩45分。
- トナリエつくばスクエア
TXつくば駅に隣接する
ショッピングモール。

食事・カフェ

- ① 誠寿司
- ② つけ麺丸長
- ③ レストラン夢屋
- ④ レストランフライパン
- ⑤ 松屋
- ⑥ おにぎりカフェ クレマチス
- ⑦ お好み焼きより味ち
- ⑧ レストラン SPRING FIELD
- ⑨ カフェヨン
- ⑩ サザコーヒー
- ⑪ Moikka (テイクアウトケーキ)

スーパー・コンビニ

- a カスミ筑波大学店
セルフレジ。クレジット、
電子マネーのみで
現金が使えないので注意。
- b ファミリーマート
点字ブロックの整備、店員さ
んのサポートなど、利用しや
すい。
- c セブン-イレブン
- d ローソン

Campus Life

課外活動／視覚

スポーツ

サークルや大会参加などで結果を残すことも大学生活の楽しみのひとつです。ブラインドサッカーでは日本代表選手に選ばれる在學生や卒業生もいます。



フロアバレーサークル



スポーツ大会(水泳、サウンド
テーブルテニス)



様々なバンドが演奏を披露するメインステージ

学園祭

春日キャンパスでは、秋に学生団体や学生有志の企画により、学園祭の「秋月祭」が開催されています。学生たちによるバンド演奏などの発表や本格マッサージ体験、e-sports大会、模擬店等が開かれています。

サークル活動

4年間の学生生活は、専門の学習ばかりでなく、友人を得たり教職員との交流を深めたりする場でもあります。サークル活動は、個人の趣味を活かし、学生生活に潤いを与え、有意義なものにします。

体育系サークルにはブラインドサッカー、フロアバレー、ゴールボールなど、文化系サークルには軽音、あん摩、ボランティアやe-sports等の多くのサークルがあります。



ブラインドサッカーサークル



スマートスピーカーアプリ開発チーム

体育・課外活動施設

トレーニング室を備えた体育館、グラウンド、プール等があります。これらの施設は、課外活動等で利用することができます。

／聴覚

部活動・サークル活動

課外活動は、豊かで幅広い人間性を育成するうえで、有意義な活動です。友人同士や仲間同士で3名集まると、新しいサークルを作ることができます。



NTUT バレーボール部



野球サークル



バスケットボールサークル



NTUT 陸上サークル



フットサルサークル



卓球部



BADMINTOX



IDFC



Flowin' Friends (ダンスサークル)



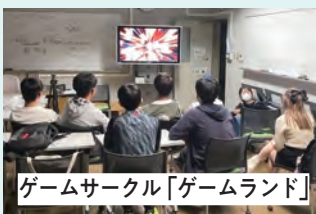
バドミントン部



テニスサークル



ボルダリングサークル



ゲームサークル「ゲームランド」



UN - FROZEN



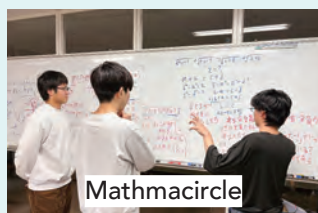
軽音部



手話のゆかり



フリエイティブ・オルタナ



Mathmacircle

体育・課外活動施設

武道場・トレーニング室を備えた体育館、グラウンド、テニスコート等があります。これらの施設は、課外活動等で利用することができます。

学園祭

天久保キャンパスでは秋に学園祭「天龍祭」が開催されています。飲食店や販売、展示に加え、手話落語や手話ソングパフォーマンス、春日キャンパスとの交流会など、様々な企画が盛り沢山。普段の授業の時の様子とは異なる学生の底力を感じられる学園祭です。



International Exchanges

国際交流／視覚

本学の前身である筑波技術短期大学の頃から常に世界に目を向け、障害者の高等教育の発展に努めてきました。特に諸外国の障害者のための大学や高等教育を支援する諸機関と積極的に交流を行い、現在以下の大学や機関と交流協定を結んでいます。

海外研修

ヨーロッパ

ヨーロッパ研修では、欧州各国から視覚障害のある学生たちが集い、10日間生活を共にするサマーキャンプICCに参加します。期間中は英語で行われるワークショップやレクリエーション、エクスカージョンなどがあります。



スポーツを通して交流を深めることも



エクスカージョンでのカヤック体験

ヨーロッパの海外研修には、およそ15ヶ国から50人以上の学生と40人以上のスタッフが集まります。共通言語は英語です。



海外研修

アメリカ

アメリカ研修は、主に保健科学部保健学科理学療法学コースの学生が、アイオワ大学にて1週間程度学習するものです。実際の授業を体験させてもらったり、最先端の研究を行う現場を見学させてもらったりします。



アイオワ大学の障害学生支援サービスにて



アイオワ大学理学療法学科の授業に参加

- 1992 ロチェスター工科大学、国立聾工科大学 [アメリカ合衆国]
- 2001 ヨハネスケプラー大学統合教育学習支援センター [オーストリア共和国]
- 2003 韓京国立大学校 [大韓民国]
天津理工大学・聾工学院 [中華人民共和国]
- 2004 北京連合大学・特殊教育学院、
長春大学 [中華人民共和国]
- 2005 韓国ナザレ大学校 [大韓民国]

- 2008 バウマンモスクワ工科大学 [ロシア連邦]
- 2013 アイオワ大学 [アメリカ合衆国]
- 2015 マヒドン大学ラマティボディ病院医学部
ラチャスダ校 [タイ王国]
- 2023 ギャローデット大学 [アメリカ合衆国]
- 2025 デ・ラ・サール・カレッジ・オブ・セント・
ベニルデ [フィリピン共和国]
インドネシア教育大学 [インドネシア共和国]

学生が、世界の障害者と交流し、世界に興味を持って視野を広げることを支援するために、本学は、海外の大学と交流協定を結び、現地の学生と共に授業を受けたり交流を深めたりするというプログラムを実施しています。

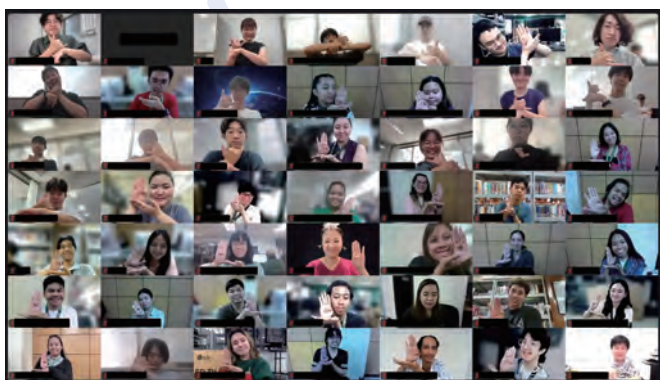
このプログラムは、専門教育系科目や特設授業科目の「異文化コミュニケーション」で実施され、希望者の中から選ばれた学生が協定校に派遣されます。派遣のための費用の一部支援は大学の基金等から行っています。米国に行く学生はもちろん、興味のある学生は誰でも参加できるアメリカ手話（ASL）の講座も実施しています。



NTIDの施設見学の様子



学生交流の様子（ギャローデット大学の学長たちと）



デ・ラ・サール・カレッジとのオンライン国際協働学修



海外研修報告会

ASL 講習会

研修の日程（参考）[2024年度米国東部・ギャローデット大学]

- 3/ 8(土) 日本出国、ワシントンD.C.着、サイニングストア（手話が共通言語のスターバックス）訪問
- 3/ 9(日) 異文化体験、ナショナルモール等歴史・文化施設見学
- 3/10(月) 表敬訪問、キャンパスツアー、多文化学生プログラム
- 3/11(火) 授業見学、寄宿舎見学、
デフ・プレジデント・ナウ・プレゼンテーション
- 3/12(水) キャンパスツアー、振り返り、障害を持つアメリカ人法
ドキュメンタリー上映会、学生自治会への参加

- 3/13(木) 同窓会、アーカイブセンター・レジリエンス
センター等訪問、授業見学、学生イベント
- 3/14(金) 授業・モーションライトラボ見学、ろう者が
運営する店を訪問
- 3/15(土) 国会議事堂、Apple Store等見学、現地在住者との交流
- 3/16(日) 異文化体験、歴史・文化施設見学
- 3/17(月) アメリカ出国
- 3/18(火) 帰国

Cross Talk

学生座談会

初めての大学、初めての学部、そして初めての仲間。

共生社会創成学部の1期生たちは、戸惑いながらも一步步大学生活を歩み始めました。大学での学び、サークルでの挑戦、日々の交流の中で見つけた「自分らしさ」。共生社会の実現をめざし、多様な価値観を尊重しながら学ぶことが、この学部の理念です。未来への期待や不安を胸に、それぞれが自分の道を模索しています。そんな学生たちの声を、座談会のかたちでお届けします。

※視覚障害コースの学生の発言は **視覚：** 聴覚障害コースの学生の発言は **聴覚：** と記載しています。

—1学期があっという間に終わりましたね。皆さん、率直にどうでしたか？

視覚： そうですね、あっという間だったなと思います。授業も楽しかったですし、聴覚障害コースの皆さんとも少しですが話すことができ嬉しかったです。2学期はもっと交流ができたらいいなと思っています。

聴覚： 私もあっという間でした。それから、視覚障害コースの皆さんと直接話す時に、どうやってコ

ミュニケーションを取ればいいのかを試行錯誤したんです。それがとても勉強になりました。この経験をこれからも活かしていきたいと思っています。

—そうですね。私たち教員も、気づけば1学期が終わっていました。

入学前の気持ちを思い出してみてください。ワクワクする気持ちもあったと思いますが、不安もあったのではないのでしょうか。



視覚：高校までは一般校に通っていたので、障害のある他の人と関わる機会がほとんどありませんでした。どう接したらいいのかとても不安でしたが、実際に関わってみると、特別なことはなく、自然に接していいんだと感じました。

聴覚：大学に入ってから、すべてが初めての経験でした。大学という環境も、共生社会創成学部も、視覚障害のある学生さんと一緒に学ぶことも、全部が初めてでとても不安でした。でも、意外とみんなと話すことができ、安心しました。

一皆さんそれぞれ、大学に入って環境が大きく変わり、高校までとは違う戸惑いもあったと思います。それでも今、こうして笑顔で話してくれていることから、少しずつ安心できる場になっていることが伝わってきます。



一では質問を変えてみましょう。1学期を振り返って、面白かった授業や、高校生に向けておすすめしたい授業はありますか？

視覚：私のおすすめは「視覚障害学概論」です。眼のしくみや視覚に関わる専門的な知識を学べる授業で、この大学だからこそ受けられる内容だと思います。

視覚：僕も「視覚障害学概論」と「修学基礎」の授業を挙げたいです。特に、「修学基礎」で聴覚障害コースの学生と一緒に受けた2回の授業は印象に残っています。

視覚：「修学基礎」は、聴覚障害コースの皆さんと一緒に受けた回だけではなく、視覚障害のある学生だけで行われた授業もとても面白かったです。たとえば、盲導犬協会の方や、同行援護の事業所を運営さ



れている方が来てくださって、直接お話を伺うことができました。現場で活躍されている方々から話を聞けるので、気軽に質問もできますし、福祉サービスや制度についての理解が深まり、とても良い機会になりました。

視覚：「視覚障害学概論」は、最初は“面白そう”と思って受講していたんです。私は生物が苦手なので、眼の構造あたりで水晶体とか硝子体とかが出てきたときは「これ無理かも…」と思ったんですけど、福祉に関連する法制度や障害者権利条約に関連する法律の話も出てきて、公民や法律が好きな私にはとても面白かったですね。

視覚：「健康・スポーツA」の授業が印象に残っています。普段あまり体を動かす機会がないので、スポーツの歴史を学んだり、実際に体験したりできて、すごく貴重な時間でした。

視覚：私も「健康・スポーツA」が楽しかったです。運動は好きですが、これまで障害のある人のスポーツ、いわゆるパラスポーツを体験したことがなかったので、初めての競技も多くてとても新鮮でした。

視覚：個人的に気に入っている授業は「点字の理論と実際」です。私は点字ユーザーなのですが、普通の文字を使っている友達に点字を教えたり、点字の歴史を勉強するのがとても楽しくて、授業が終わってしまったのが残念なくらいです。

視覚：僕は「数学基礎」が好きです。高校までは一人で勉強していたのですが、ここではいろんな人と一緒に問題を解いていくことができ、それがとても楽しくて、ますます数学が好きになりました。

聴覚：私が印象に残っているのは「情報保障概論」



です。聴覚障害者のためのノートテイクやパソコンノートテイクについて学べる授業で、テレビ放送の字幕の仕組みなども知ることができ、今後に役立つ内容だと思いました。

聴覚：私も同じく「情報保障概論」が印象に残っています。自分がパソコンノートテイクをする経験がなかったので、授業で友達に対して実際にやってみたことがとても貴重でした。タイピングがスムーズにできないと、文字を見ている友達が「何？どうしたの？」と戸惑ってしまうこともあって、タイミングを合わせて伝える難しさを実感しました。

聴覚：私は「歴史学」の授業が面白かったです。もともと歴史が大好きで、特に戦国時代がマニアと言えるほど好きなんです。授業の中で先生が話してくださる内容と、自分が知っていた知識がつながっていくのが楽しくて、毎回楽しみにしていました。

一皆さん、ありがとうございます。共通して挙げられた科目もあれば、それぞれの学生の関心が異なることもあり、とても充実した学びをされていること

が伝わってきました。

せっかくなので、勉強以外で大学生活の中で楽しんでいることについても聞いてみたいと思います。

視覚：私はサークルを3つ掛け持ちしています。1つ目は「サウンドテーブルテニス（STT）」という、卓球台を使って、転がってくるボールの音を聞き分けて打ち合うスポーツのサークルです。2つ目は、「ブラインドサッカー」のサークルで、全員が見えない状態で、ボールの中に入っている鈴の音を頼りにプレーします。3つ目は「ラジオサークル」で、機材を自分たちで組み立てて、ミキサーを使って音量を調節しながら話すなど、放送の準備から片付けまで学生だけで行います。高校まではこうした経験があまりなかったので、自分たちで一から作り上げていくことの楽しさを感じています。

視覚：大学のオープンキャンパスで、学生スタッフとしてアルバイトをしました。高校生にアドバイスができたことが嬉しかったです。自分も少し前まで高校生だったのに、今は大学生として後輩に「大学

ではこんなことができるよ」「こんな楽しさがあるよ」と伝えられるのは、とても良い経験でした。

聴覚：私はダンスサークルに入っています。今は学園祭のステージ発表に向けて練習を重ねていて、とても楽しいです。

聴覚：聴覚障害に理解のあるハンバーガーショップでアルバイトをしています。覚えることが多くて大変ですが、筑波技術大学の先輩や同級生も一緒に働いていて、手話でコミュニケーションが取れるので安心して働いています。

一みなさん、充実した日々を送っていることが伝わってきますね。

では、普段の食事はどうしていますか？自炊している学生さんは…視覚障害コースでは半分くらい、聴覚障害コースでは4分の1くらいでしょうか(笑)

視覚：昼は寄宿舎の部屋に戻って、簡単に食べることが多いです。夜は中華料理を食べに行ったりしますね。筑波大学の宿舎を越えたところにお店がたくさんあるので、友達と歩いて行っています。

聴覚：天久保キャンパスの近くには美味しいお店がたくさんあるので、つい外食しちゃいます(笑)

聴覚：おすすめしたいお店がたくさんあるので、ぜひ学部案内にも載せてください！

—2学期には、両コース合同で実施する授業も始まります。授業だけでなく、食事やサークル活動など、学生同士の交流の機会もさらに広がっていきそうですね。

では最後に、皆さんが思う「共生社会創成学部の推しポイント」を教えてください。



聴覚：文系でも理系でも、どちらの学生でも学べるところです。筑波技術大学は情報システムや機械・建築など、理系のイメージが強かったので、理系じゃないと入れないのかなと思っていました。でもこの学部は文理融合の学びと聞いて、「もしかしたら私でも入れるかも」と思えました。

視覚：春日キャンパスには「共創Lab」という部屋があります。電源コードが天井から吊るされていて、視野が狭い人が床のコードにつまずかないように工夫されています。

また、春日キャンパスの授業ではホワイトボードをあまり使わないのですが、聴覚障害コースの学生との交流・意見交換のためにホワイトボードが設置されているなど、細かな配慮がされています。

共生社会創成学部では、学びの内容だけでなく、学びの場そのものにも工夫が凝らされています。教室の設計や授業の構成、学生同士の交流の機会など、すべてが「共に学ぶ」ことを大切に設計です。ここでの学びが、学生一人ひとりの可能性を広げ、社会を変えていく力につながっていくことを願っています。



OB/OG Interview

先輩インタビュー

Message

参天製薬株式会社 基本理念・サステナビリティ本部 勤務

アブディン モハメドさん

Mohamed Abdin

2001～2002年度在籍
筑波技術短期大学情報処理科



私たちがデザインする、誰もが生きやすい社会

OBとして、新しく「共生社会創成学部」が開設されたことをとても嬉しく思っています。社会は「見えること・聞こえること」を前提に作られています。そのため、視覚や聴覚に障害があることで、私たちは日常的に多くの不便に直面します。しかし、その経験こそが私たちが社会をデザインする強みになると信じています。なぜなら、社会課題と向き合う前に、他人の困りごとを想像し、思いをはせられる人間であることが重要だからです。障害による不便を経験した私たちは、課題発見や解決に必要な共感性に優れているかもしれません。この力は社会をより良くするための大きな武器です。

私は「障害はアセット」という考え方を大切にしています。障害を弱点ではなく、社会に新しい価値を生み出す資源と捉えることで、当事者ならではの視点から共生社会のあるべき姿を提案できると信じています。28

年前に来日し、盲学校、大学、大学院と学ぶ環境に恵まれました。その中で、祖国スーダンの視覚障害者の社会参加をどう実現するかを考え続け、仲間とともにPCトレーニングセン

ターの設立や盲学校への初めての点字プリンター導入を実現しました。これにより教育環境が飛躍的に改善し、現地で活動が定着しました。

日本でも視覚障害者の就労は大きな課題です。私は参天製薬(株)の社員として、視覚障害者がもっと社会参加できるよう奮闘しています。弊社は眼科医療に特化したグローバル製薬企業で、「Happiness with Vision」を掲げ、視覚障害の有無にかかわらず生き生きと共生できる社会をめざしています。私はコアビジネスの強みを活かし、課題解決に向けた企画に携わり、やりがいを感じています。

また、外国出身者として、多文化共生にも力を注いでいます。7年前から東京都多文化共生推進委員会の委員を務め、外国人が地域社会の発展に貢献できる体制づくりを提案してきました。外国人住民が「喜ばれる存在」になる社会を夢んでいます。

私たちの視点なしに社会制度やサービスは設計されています。だからこそ、私たち自身が社会をデザインする側に回る必要があります。障害という切り口に限らず、様々な課題に好奇心を持ち、誰もが住みやすい社会を一緒に描いてみませんか？私たちの視点が加わることで、きっと今より温かい社会が実現すると信じています。



Message

社会福祉法人(聴覚障害者情報提供施設) 勤務

渡邊好行さん

WATANABE Yoshiyuki

2009年度
産業技術学部卒業



支援を受けるだけじゃない。 私も誰かを支える人に！

現在、聴覚障害者情報提供施設に勤務し、ろう者、特に高齢ろう者の生活相談支援を担当しています。この施設は、手話通訳者・要約筆記者の派遣・養成・研修や、聴覚障害のある方々への相談対応などを行う、身体障害者福祉法で定められた公的施設です。

振り返れば、支援の道に進むきっかけは、学生時代の多くの出会いと経験の積み重ねでした。小学生の頃は、市内の小学生が集まる宿泊活動に毎年参加し、聴こえる子どもたちや、他の障害のある子どもたちと関わる経験を重ねました。中学生になると、視覚と聴覚に障害がある盲ろう者の存在を知り、授業で盲ろう者の先生と触手話でやり取りを続けるなかで、最初は戸惑いながらも、「意外と通じる」という感覚を得ました。大学時代に参加したキャンプでは、手話が分からない中途失聴の参加者に対し、同級生と協力してパソコン通訳を行い、支援者の立場を知ることができました。

その中でも盲ろう者への支援は、現在も続けています。高校時代に盲ろう者向け通訳・介助者の養成講座を受講しましたが、未成年のため登録できず、筑波技術大学を卒業後に改めて受講し、現在まで15年以上活動を続けています。

「支援を受けるだけでなく、自分も誰かを支えたい」——その思いが原点です。企業で7年間働きながら、盲ろう者への通訳経験を重ね、現職に就いて今年で10

年。相談内容は日常生活の困りごとにとどまらず、時には複合的で困難な課題に及ぶこともあります。経験だけで支援を続けることに不安を感じ、社会福祉士の資格取得を決意。通信制大学で学び直しましたが、そこで

痛感したのは「交渉力」の重要性でした。必要な合理的配慮を求める際、ただ「こうして欲しい」と伝えるだけでは不十分。相手に理解してもらうための工夫や交渉術、そして何よりも建設的な対話が不可欠だと学びました。

共生社会創成学部で学ぶ皆さんには、ぜひこの「対話と交渉」の力を身につけてほしいと思います。多様な背景を持つ人と学ぶ環境は、社会のバリアを乗り越える練習の場です。遊びやアルバイトなど大学生活を思う存分楽しむことも大切ですが、「自分は何をやりたのか」を考える時間を持ち、仲間と意見を交わす経験は、将来必ず役立ちます。大学での学びや挑戦が、あなたの未来を広げ、共生社会をつくる力になるはずですよ。



入学案内・各種費用

入学資格

大学入学資格(特別支援学校高等部や高等学校を卒業した者等)のほか、障害に関する以下の要件があります。

視覚障害コース

両眼の矯正視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のも若しくは将来点字等の特別の方法による教育を必要とすることとなると認められるもの。

聴覚障害コース

両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上※の者又は補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能若しくは著しく困難な程度の者。
※裸耳(補聴器を外した状態又は人工内耳のスイッチをオフにした状態)での聴力レベル

募集人員

15名(内訳:視覚障害コース10名、聴覚障害コース5名)

入試情報

共生社会創成学部では、情報保障に関する文理融合的な知識を学び、社会の仕組みや制度の変革に向けて主導する意欲のある人を幅広く受け入れています。

入試区分	視覚障害コース	聴覚障害コース	選抜方法
学校推薦型選抜 2026年11月21日(土)	4名	2名	書類審査・小論文・面接
社会人選抜 2026年11月21日(土)	若干名	若干名	書類審査・小論文・面接
総合型選抜(視覚コースのみ) 2026年12月19日(土)	3名	—	書類審査・面接
一般選抜(前期課程) 2027年2月25日(木)	3名	3名	書類審査・大学入学共通テスト(2教科※)・面接・小論文・プレゼン(聴覚コースのみ)

※大学入学共通テストは国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科、情報の中から2教科2科目を選択。

※このほか、編入学試験も実施しています。

入学料・授業料

■入学料 282,000円(入学手続き時に納入)

■授業料 535,800円(年額)

前期分 267,900円(5月に納入)

後期分 267,900円(11月に納入)

入学金・授業料免除制度

本学は、2020年度開始の国の「高等教育の修学支援制度」対象校に認定されています(制度の詳細は右の二次元バーコードから)。これとは別に、本学では下表の入学料・授業料免除制度を実施しています。なお、経済的困難のある方は、本学の免除制度と国の「高等教育の修学支援制度」を両方併せて受給申し込いただけます。また、家計急変で急に支援が必要になった際も、本学は機動的にお支える仕組みがあります。



文部科学省ホームページ国の「高等教育の支援制度」

免除の種類	免除メニュー	選考基準	免除額	備考
入学料免除		○所得基準・資産基準を満たすこと ○家計急変のために緊急に支援する必要があると認められること	全額または半額	
授業料免除	経済的理由	○所得基準・資産基準・学業成績基準を満たすこと	全額または半額または一部	
	災害等による家計急変	○家計急変のために緊急に支援する必要があると認められること ○資産基準を満たすこと	全額または半額または一部	家計急変があった場合、申請期限等に関わらず、随時申請可能
	社会人	○本学の社会人入学者選抜で入学した者等	半額または一部	
	私費外国人留学生	○「留学」の在留資格を有する者 ○学業成績基準を満たすこと	全額または半額または一部	
	学修意欲	○修得単位基準を満たすこと	一部(最大1割)	学部生のみ対象 他の免除と併用不可
	表彰	○表彰された場合	全額	

※上記の免除制度以外にも、入学料・授業料の徴収猶予制度や、授業料の月割分納制度もあります。
 ※大学院生・私費外国人留学生は国の「高等教育の修学支援制度」の対象外ですので、ご注意ください。
 ※予算や申請状況によっては、申請し基準に該当しても、免除等にならない可能性があります。ご了承ください。

奨学金

経済的な理由等で修学が困難な学生に対しては、各種の奨学金制度があります。

日本学生支援機構奨学金

優秀な学生で、経済的理由により修学が困難な場合には、日本学生支援機構の選考により奨学金が給付または貸与されます。奨学金は、給付型奨学金、第一種奨学金(無利子)、第二種奨学金(有利子)があります。

その他の奨学金

地方公共団体、各種法人等が募集する奨学金制度があり、内容は団体等によって異なります。

学生教育研究災害傷害保険等

授業中や課外活動中の事故に対して補償する「学生教育研究災害傷害保険」と授業中や課外活動中のみならず、インターンシップ(企業実習等)等で起こった学生の賠償事故(他人にけがをさせたり、財物を破損させたりした事故)について補償する「学研災付帯賠償責任保険」があります。本学ではこの保険制度に賛同し、基本部分については大学が負担し、特約及び付帯賠償については、入学時に全員が加入するよう勧めています。

OPEN CAMPUS 2026

下記実施日程等詳細については、別途実施案内（本学ホームページ等）を作成しますのでご確認ください。参加を希望する場合は、事前に裏表紙の各キャンパス問合せ先にご連絡ください。

視覚障害コース [春日キャンパス]

■オープンキャンパス

第1回（体験授業 / 在学生質疑応答）

6.20 [土] 10:00-17:00

第2回（授業見学）

7.24 [金] 10:00-17:00

第3回（体験授業 / 卒業生質疑応答）

8.23 [日] 10:00-17:00

■オンライン大学説明会

5.16 [土] 14:00-16:00

※学部、学科・コースの説明と個別相談

■オンライン受験相談会

第1回

9.19 [土] 14:00-16:00

第2回

2027.

3.20 [土] 14:00-16:00

※個別相談のみ（一人あたり30分程度）

■学園祭における入学相談会

詳細が決まり次第、HP等でお知らせします。

聴覚障害コース [天久保キャンパス]

■オープンキャンパス

6.7 [日] 10:00-16:00

8.8 [土] 10:00-16:00

8/7(金) 13:30-16:00には、
プレイベントを開催予定

10.11 [日] 10:00-16:00

同日、学園祭を開催予定

■オンラインオープンキャンパス with 編入学セッション

5.10 [日] **8.8** [土]

13:30-16:00 オンライン

■在学生と話せる授業見学ツアー

6.8 [月] **10.23** [金]

10:00-13:00 13:00-16:00

■出張オープンキャンパス

5.31 [日] 北海道 / 大阪 / 福岡

9.13 [日] 大阪 / (仙台)

13:30-16:00

ミニ説明会(学校訪問)・大学見学・個別相談・オンライン相談 [随時]

※掲載内容は2026年3月31日時点の情報です。予定が変更した場合は、本学ホームページ、Facebook、X(旧Twitter)等でお知らせします。

ACCESS MAP



筑波技術大学 春日キャンパス

筑波技術大学 天久保キャンパス

[天久保キャンパス]

つくばセンターから天久保キャンパスへは、関東鉄道バスをご利用ください。
5番乗り場から、「つくばテクノパーク大穂」行きバスに乘車、「筑波技術大学産業技術学部」下車（所要時間約15分）、徒歩約1分。
6番乗り場から、「筑波大学循環 左回り」バスに乘車、「合宿所」下車（所要時間約15分）、徒歩約5分。

[春日キャンパス]

つくばセンターから春日キャンパスへは、関東鉄道バスをご利用ください。
6番乗り場から、「筑波大学循環 右回り」行きのバスに乘車、「平砂学生宿舎前」停留所下車（所要時間約7分）、徒歩約3分。

交通案内

両キャンパスともつくば（つくばセンター）が最寄り駅です。

視覚障害コース [春日キャンパス]

国立大学法人筑波技術大学

視覚障害系支援課教務係

〒305-8521 茨城県つくば市春日 4-12-7

TEL 029-858-9507 ~ 9509

FAX 029-858-9517

E-mail: kyoumuk@ad.tsukuba-tech.ac.jp

聴覚障害コース [天久保キャンパス]

国立大学法人筑波技術大学

聴覚障害系支援課教務係

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

TEL 029-858-9328、9329

FAX 029-858-9335

E-mail: kyoumua@ad.tsukuba-tech.ac.jp

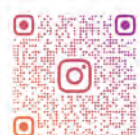
Publishing ;

Faculty of Diversity and Inclusion Studies

Tsukuba University of Technology

SNS も更新中！

『筑波技術大学』で検索



Instagram



Facebook



X



ホームページ



LINE



国立大学法人
筑波技術大学

筑波技術大学のコミュニケーションマークは、大学の成長と発展、ポジティブな拡散を感じられるデザインとなっています。それぞれのオブジェクトは、聴覚障害者にとっての視覚、視覚障害者にとっての聴覚を表現し、二つのオブジェクトの組み合わせで、障害に縛られないコミュニケーションを、また、人とその周囲の社会や環境を表現しました。